

2024年12月1日（降臨節第1主日、C年）

牧師メッセージ

「必ず希望がある」

（ルカによる福音書 21:25-31）

司祭ヨセフ太田信三

教会は新しい暦を迎え、降臨節、アドヴェントに入りました。アドヴェントという単語は、アドヴェンチャー（＝冒険）という英語の語源です。クリスマスは冒険の出来事です。まず、神ご自身がご自分のそれまでの有り様を自ら壊し、冒険をしてこの世に降って下さいました。そして、クリスマスの物語に欠かせない人々、マリア、ヨセフ、羊飼いや博士たちも、冒険の先で赤ちゃんイエス様と出会います。冒険をする人々にクリスマスは訪れたのです。

さあ、私たちもこの冒険に招かれています。自分が今いるところから、外に出ていく。安全なところから旅立ち、危機に出会い、そして自分自身のそれまでのあり方、殻が破られ、新しい価値観、新しい世界と出会う。それが冒険です。救い主がお生まれになったこの物語を信じることも難しいことかもしれませんが、この出来事が「自分のために」起こったこととして信じることはとても難しいことです。頑なな心が砕かれなければなりません。そのためには、私たちにも冒険が必要なのです。

今日の福音は終末について語っています。終末は主イエスと顔と顔とを合わせる救いの時です。終末は神様からのプレゼントです。私たちには世の終わりまで、希望が用意されているのです。けれども、それを信じることもまた難しいことです。私たちは目の前の出来事に絶望し、希望を失ってしまいます。だからこそイエスは、「いちじくの木や他の木々を見て季節の到来を知るように、注意深くしていなさい」と言います。私たちが注意深くいるなら、希望は絶対に失われないからです。なぜなら、自ら危険を犯し、この世に降って来てくださった神は、今この瞬間にも私たちと共におられ、必ず私たちを守り、導いてくださるからです。そのことを信じて、注意深く、今このときにも注がれる神の恵みを感じて生きるなら、私たちはいつまでも神の希望の中を歩むことができます。今の救い、将来の救いが、主イエスのご降誕を信じる者には約束されています。今日からの四週間、私たちも信じる者になるための冒険に出かけましょう。